



市史へんさん

梅の蕾もほころび、春の気配を感じる今日この頃です。陽も長くなり、春分の日も間近です。この春分の日には秋分の日と共に、太陽が真東から昇り真西に沈むことから、現世と西にある極楽(来世)が最も近くなる日とされ、この日ははさみ、前後3日の計7日間を「彼岸」と呼び、仏を供養することで極楽浄土へ行くことが出来るとされます。宮中でも、「皇霊祭」として歴代天皇・皇后の霊を祀る儀式が行われ、この春季・秋季皇霊祭が「春分の日」・「秋分の日」に引き継がれ、祝日となった訳です。

春分の日には、「生物をいつくしむ日」として定められていますが、先祖を感謝する日でもあり、その日は墓参りに行って、仏前には牡丹餅(秋はおはぎ)を供えて、供養しましょう。



『新修 小松市史 資料編 17 考古』第4章の見どころ



第4章は、「稲作社会の到来」と題して、弥生時代の遺跡を能美低地、東部丘陵地、月津台地に分け、10箇所を取り上げると共に、特論として、小松式土器や碧玉原産地と玉づくりについて詳説した。

弥生時代の稲作社会は、紀元前350年頃の八日市地方遺跡の環濠集落がその指標となる。西から日本海経由で櫛描文土器を携えた人々と、地元で条痕文土器を使っていた人々が協働で村づくりを行った。集落形成当初から農具など稲作文化を支える諸道具が網羅的に生産され、計画的にムラづくりが行われた。集落内では、市の南部から生産される良質の碧玉を原料に菅玉生産が大規模に行われ、日本海を通じた西の世界との交換財として流通した。東アジア最古の柄付き鉄製鉋(ヤリガソ)の出土は交換財の一つが最先端の鉄の道具であったことを物語っている。このように八日市地方遺跡は東西文化の結節点の役割を果たしていた。

紀元前100年頃になると、西から凹線文土器という新しい型式が波及し始めると、八日市地方遺跡は、急速に縮小から解体へと向かう。やがて、紀元後100年頃には、木器生産が盛んな白江梯川遺跡や、北陸最古級の鉄鍛冶と銅鑄造資料が出土した一針B遺跡など、ものづくりの中心的な役割を担った集落が登場し始める。さらに梯川の中流域には遺跡が拡散、急増し、流域は県内屈指の遺跡密集地となっていく。低地だけでなく、台地上に八幡遺跡や吉竹遺跡などが展開し始め、また、加賀三湖に囲まれた月津台地でも念仏林南遺跡や額見町西遺跡など、高台の集落も誕生する。

一方、急峻な丘陵地では、高地性集落が展開し、河田山遺跡に見られる防御機能を

備えた集落や、大型住居や倉庫群を伴い、拠点的な役割を担う八里向山遺跡群が出て来る。これらの丘陵地の集落は古墳時代の幕開けと共に終焉を迎え、台頭した首長たちによる古墳造営の舞台へと変わっていくのである。

章末の特論では、櫛描文土器と条痕文土器が共伴、融合して形成された小松式土器の形成過程を図版により解説、その後の新幹線ルートに沿った東日本への拡散についても詳述する。また、碧玉は、その原産地の追求から日本海への波及の実態、管玉の生産工程に至っては究極の細かさを目指した技術を図入りで解説する。大陸の人々を魅了した美しい色、弥生の宝石と言われた管玉の一端に触れる。



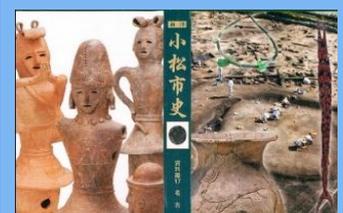
把付磨製石剣・柄付き鉄製鉋
(八日市地方遺跡)



方形周溝墓より出土した管玉
(八日市地方遺跡)



小松式土器
(八日市地方遺跡)



『考古編』DVD付

定価 5,100円
販売所 図書館2階
市史編纂担当
うつつのみや
小松城南店
明文堂書店
小松ツリーズ

番外編『写真でふりかえる小松市～モダニズム小松～』

図書館西口展示の標記展示は3月で幕を閉じますが、『近現代編』の発刊が間近であり、「小松の原風景」として付録 DVD に写真資料が収録されることから、番外編として、大正から昭和期の先進的な小松の姿を、大衆文化の面から追ってみました。当時のモダニズムな一面が随所に顕れ、その視点からも見ていただきたい。



ラジウム福寿鉱泉 大正 6 年撮影

《大浴場》小松城跡地を入手した寺井町の酒井芳が、大正 4 年(1915)に堀貫で低温湯を汲み上げ、ラジウム鉱泉を設けた。当時の宝塚温泉の「千人風呂」を真似て、一時に 100 人余が入れる大浴場で、近辺には旅館や料亭、売店もあった。しかし燃料費がかさみ、大正 9 年に閉鎖。近代的な建築であったため、一部は片山津温泉に移築された。



小松新興館 昭和 16 年頃撮影



丸和百貨店 昭和 12 年頃撮影

《劇場・映画館》大正初期には、本折町に福助座、大文字町に芦城劇場という芝居小屋があり、親しまれていたが、橋南の大火で全焼した。昭和 10 年代前半に、日本館(後に小松新興館と改称)、小松館が映画館として設けられ、映画の流行もあって、連日、大入り満員、長蛇の列であった。

《百貨店》小松最初の百貨店は、昭和 5 年(1930)に三日市町角に建った丸和百貨店だが、僅か 2 年で、橋南の大火で類焼した。その後、同 9 年に再建。1・2 階を売店、3 階を食堂として再開した。戦時中も大和百貨店と提携して事業を続けていたが、同 18 年に小松製作所に譲渡。戦後、丸福百貨店として再出発したが、同 34 年の火災で全焼した。

《娯楽》橋北・橋南の大火後、町は復興に邁進し、近代的な商工都市に再生、モダンな建築物が次々と建てられた。繁華街では、同 6 年に出来た清水町の来々軒を最初に、カフェが流行り、本折町にかけて店が建ち並んだ。

< 2月の活動状況 >

- ・ 2月 6日(土) 疫病関係資料(多太神社・浅田家文書)調査
- ・ 2月 11日(木) 帝国在郷軍人会関係資料調査
- ・ 2月 24日(水) 絵馬関係資料調査
- ・ 2月 27日(土) 第 92 回市史講座(古文書講座)



< 3月の活動予定 >

- ・ 3月 7日(日) 第 93 回市史講座(古文書講座)
- ・ 3月 13日(土) 第 94 回市史講座(古文書講座)

< 3月のカレンダー > 開室時間 10:00~12:30/13:00~17:00 (火~土)

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
2/28	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	4/1	4/2	4/3

* は閉室しています。開室時間は、図書館の開館時間に合わせてあります。上記以外の時間も含め、御用のある方は、9時から17時まで受け付けますので、下記にご連絡ください。

小松市史編纂担当 (小松市立図書館 2 階)
 ・住所 〒923-0903 小松市丸の内公園町 19 芦城公園内
 ・TEL 0761(24)5315 ・FAX 0761(22)9763
 ・E-mail hensansitu@city.komatsu.lg.jp
 ・URL <https://www.city.komatsu.lg.jp/soshiki/toshokan/shishihensan/index.html>

